

エコ. エコ (ecology. economy)

特定非営利活動法人 エコ. エコ

記憶の風景 (5) 見沼にかつてあった花々

さいたま市緑区南部領には、地元の野菜を売っている「みどり販売所」があります。地元の方の交流の場でもあります。この販売所や近隣の方との立ち話の中には、昔咲いていた花の話も出てきます。そこで、皆さんにお聞きしたことを季節毎にまとめてみました。

春、水の入る前の田んぼはレンゲが一面咲きほこり、五斗蒔周辺の斜面林ではワラビが一面芽を出し、白や薄紫のスマイレも咲いていたそうです。ウラシマソウやマムシグサもあつたように記憶しているけれど、色や形が気持ち悪く感じたということです。シュンランは斜面林に入るとたくさんありましたが、全部盗まれてしまい今はなくなりました。白い花のナルコユリ、黄色いキンポーゲ（ウマノアシガタ）の花も水辺に咲いていました。笑顔の可愛い年配の女性は「今思い出す花は、アザミよ。きれいだったのよ。」と開口一番に教えてくれました。

夏、紫色のノハナショウブは湿地一面に咲き、ヤマユリはどこでも普通に見られ、子どもの頃、百合の花の香りで目が覚めたとのこと。オレンジ色の一重のノカンゾウ、八重のヤブカンゾウの花もありました。鷲神社にはヤマユリ、ハンゲショウの花も咲いていました。「ホタルブクロの花の中に空気を入れてぼんと鳴らしてたのが子どもの頃の遊びよ。」と幼い頃を感じさせるキラキラした目で教えてくれました。

秋、ススキが穂を出し、ワレモコウも多く見られました。秋に咲くアザミもたくさんありました。ノギクの花も咲いていました。

冬、昔は一面枯れ野。今は緑緑しているので冬のような感じがしないと90歳過ぎの方が話してくれました。

多くの植物は、最近は見かけなくなったものばかりですが、マルコ（湿地）の手入れを始めたらずえた植物もあります。かつて里山にたくさんあつた植物たちは時代が変わり、冬でも緑緑した外来種に独占され、生きる場所が減少しました。ほかの数々の要因も含め、減少の一途をたどっています。山野草愛好家が盗掘したのでしょうか。今年4月に開催された「世界盆栽大会 in さいたま」で絶滅危惧種のキンランが売られていたと仲間の中で話題になりました。キンランはその土地の何かと共生していて、植木鉢に移動すると2～3年しか花は咲かないようです。

土地の力を信じ、外来種を除去し、植物を覆い尽くすズズを抜く作業を行っています。何気ない里山の花々が咲き乱れる里山を再生することが、懐かしい未来につながる道だと思っています。



ウラシマソウ (春)



シュンラン (春)



ウマノアシガタ (春)



ノアザミ (春)



ヤブカンゾウ (夏)



ノカンゾウ (夏)



ホタルブクロ (夏)



ハンゲショウ (夏)



キンラン (春) 絶滅危惧Ⅰ類



ノハナショウブ (夏) 絶滅危惧Ⅱ類



枯れ野のマルコ (冬)

活動場所紹介 見沼ベルダ (Verda) とは

宮沢賢治はイーハトーブとして岩手県を表現しました。おとぎの国のように新しい名前をつけることは楽しいと言うことでエコ、エコも実際の表記とは別に活動場所に名前をつけています。

さいたま緑のトラスト1号地、①マルコ (Marco エスペラント語で湿地の意味)、②鷲神社、③トラスト畑・エコ畑、④福々の森、⑤福畑を含む空間をベルダ (エスペラント語で緑の意味) と呼んで活動しています。

マルコは荒地でしたが、長年調査をしている方が、ニホンアカガエルが危機に瀕していることを教えてくださいました。そこを拠点にカエルの保護活動を開始しました。

メンバーの多くは、さいたま緑のトラスト1号地の保全メンバーです。さいたま市南部領辻五斗蒔には耕作放棄地があり、地元の方から畑をやってみないかというお話があり、トラスト畑とエコ畑を耕すことになりました。見沼には斜面林がありますが、その中でも希少種が残っている森を福々の森と名付け、地主さんのご理解の元、手入れを始めました。隣には荒れた元畑が広がっていましたので、福畑と名付け活動しています。鷲神社の周辺は古墳時代の集落の跡があり、年2回辻の獅子舞が行われています。仲間の中には、初詣は静かな鷲神社に行く人もいます。

全部の活動に参加しているメンバーは、月の半分をベルダに力を入れてることになります。アカガエルが産卵すると毎日のように来ているメンバーもいます。

地元の人には不便な場所のようですが、ベルダ地区は道路が整備されていなかったことにより、日本橋から直線距離でわずか26kmしか離れていない場所にもかかわらず、気持ちの良い空間が広がっています。吉野弘の詩に「虹の足」があります。内容は、バスの乗客には見える虹がそこに暮らす人々には見えないのです。一生懸命虹があることを伝えてもその中で暮らす人々には見えない……。他人には見えて、自分には見えない幸福の中で、格別驚きもせず幸福に生きていることが……。

初めてこの地を訪れた人や、活動している仲間たちには見える心地よい場所です。

(取材・文 加倉井範子・写真 加倉井憲一)



五斗蒔の春



見沼の龍 (龍神・マルコ)

NPO 法人エコ、エコは生物多様性の保たれる空間が広がることを活動の目的にしています。

活動を御支援ください NPO 法人 エコ、エコ

問い合わせ先 メール kaerunomaru@gmail.com

Tel&Fax 048-874-9811 (加倉井)

寄付送金先 エコ、エコ 郵便振替 0110-0-711005

自然は nature is my best friend
we can be happy if all people understand nature on the earth
ともだち